

1 自己評価

(1) 保護者、生徒、教職員、地域住民の評価結果

本校においては、自己評価結果を別紙のようにまとめた。

本年度は、領域として学校運営・特色ある教育活動・学習指導・生活指導・学校保健の項目を立て、短期経営目標、具体的方策、評価指標・目標値、それについての自己評価結果と自己評価を踏まえた次年度の改善策を示した。

(2) 保護者、生徒、教職員、地域住民の意見

① 学校教育全般については、学校教育の経営方針・基本方針を学校要覧、学校ホームページや学校だよりにおいて、保護者や地域に広く分かりやすく伝える努力をした。

また、開かれた学校としては、年 10 回の授業参観日や学校公開日を 6 日間実施し、保護者や学校評議員からは、アンケートをとり生徒の様子をまとめた。

② 本校の特色ある教育活動として、生徒が主体となった生徒会活動や学校行事に関しては、とても活発に行われている・そう思うが、保護者や地域の方の意見として出されている。本校では、学級・生徒会行事や学校行事を充実させることで、生徒の「生きる力」を育て、教職員、生徒、保護者、地域の方からも理解を示されている。

③ 学習面に関して、平成 25 年度 3 年の全国・区の学力調査、2 年の都の学力調査とも一部の教科を除き、どの教科もほぼ平均以上であった。校内の定期テスト等の結果からも学力の差が見られたが、夏以降の学力の伸びが見られた。

④ 生徒の「挨拶」などの基本的な生活習慣については、教職員、保護者、学校評議員からはほぼ良好で、のびのびと素直な生徒が多くいるという意見である。

⑤ 「食育」の充実を目標に掲げ、給食試食会を実施し、保護者アンケートより保護者からの意見をいただいた。夏休みを利用し、朝ご飯コンクール等に取り組むことで、食に関する基本的な生活習慣の定着が図られている。

⑥ 学校保健の生徒の発育状況に関しては、男女ともに東京都や練馬区の平均と変わらない。学校保健委員会で内科校医からは、腹痛・下痢・便秘について話していただいた。耳鼻科校医からは、アレルギー性鼻炎の生徒が全体の 30%いる。他のアレルギー疾患を招く恐れがあるので、早期の治療を勧めてほしいとの話があった。歯科校医からは、むし歯がある生徒の数は減っているが、一人で 5 本以上ある生徒がいるので受診をすることが大切で、「噛むことの大切さ」についても話をしていただいた。薬剤師からは、薬について分かりやすい資料を基に話をしていただいた。

(3) 自己評価結果について

① 学校の教育方針について

開かれた学校として、教育目標や方針・特色ある教育活動等は、保護者や地域関係者に学校要覧、学校ホームページや学校だより・学年だよりにおいて広く分かりやすく伝え、広報活動を進めた。また、小中一貫の教育活動として小学 6 年生に、機会をとって分かりやすく教育目標や方針について触れてきた。さらに保護者会・学校公開など機会をとらえて、繰り返して説明する。

② 生徒指導について

本校の特色は、充実した学校行事にあると考える。生徒は全般的に様々な教育活動を通し、意欲的に学校生活を過ごしているとの評価もある。学校行事を通し、生徒の意欲は、とても活発に行われている・そう思うが、保護者や地域の方の意見として出されている。本校では、学年が上がるほど生徒の評価が高くなる。

家庭訪問や教育相談などの在り方を工夫し、特に生徒の悩みや特に配慮の必要な生徒に対し、個々の生徒に焦点をあて組織的にきめ細かく個別の指導を充実させる必要があると考える。

③ 学力向上について

本校の学力向上は、「授業についていけない生徒」「授業がわからない生徒」へのきめ細かな対応が課題と考える。平成25年度は、卒業生の進路状況では、全般的にはよかった。しかし、基礎的・基本的な学力が十分に身に付いていないために進路を決める上で苦勞した生徒がいた。引き続き授業時数を十分確保し、生徒の意欲を高めるように教員の授業力を向上させるとともに、基礎学力を定着させるために、家庭学習の定着・充実を図る取組が必要である。

④ 基本的な生活習慣について

全般的に生徒は、落ち着いた学校生活を過ごしており、挨拶や食生活、健康状況を見ても比較的良好である。また、環境の整備を図り、日頃の授業や道徳をさらに充実させていくことが大切である。また、基本的な生活習慣の定着は学校生活だけで身に付くものではない。今後は家庭や地域とも連携して育てることが必要と考える。

⑤ 食育について

食育を通して、生徒の食に関する知識や実践力を身に付けることが必要と考える。今後も保健給食部での、給食試食会や食に関するアンケートの実施・各教科や総合的な学習と連携した食育活動を通して、生徒や保護者の食に対する意識を高め、食に関する指導の充実を図ることが重要である。

⑥ 学校保健について

突発的な生徒の事故に際し、教職員が連携を取り迅速に対応することができた。健康で安全に過ごす学校経営は不可欠である。体格や運動能力面では、都・区との平均を上回ることができたのは、体育祭などの行事を通して、また、部活動も原則全員入部をさせていることが、生徒の体格や運動能力を向上させることができたと考える。健康面では、基本的な生活習慣と関連づけて、進めていくことが大切であると考えられる。

2 学校関係者評価

本年度は、昨年の評価項目の内容を見直し、学校関係者評価を実施することができた。昨年度と経年比較をしながら、20項目の評価項目についてご意見をいただき、今後の教育活動に生かすこととした。数値を見る限りでは生徒のがんばりがどの項目の数値にも表れ、良い方向に学校が向かっていることがわかる。

(1) 本校の教育目標や基本方針については、学校要覧や学校ホームページや学校だよりに示されており、今後も機会をとらえて、繰り返しかつ分かりやすく説明する必要がある。来年度は、さらに課題を明確にし、改善の手だてが示せるようにすることが必要である。

教育活動に関する調査では各学年とも「学校が好きである」と答えた生徒が39%~53%、「学校で友達と会うのは楽しいと思う」と答えた生徒が全体の75%以上と多くいる。一方では不登校生徒の数は減っていない。学年体制で生徒理解に努め、担任が一人で抱え込むことがないよう、情報を共有し、校内体制を築き、組織的に対応にあたり、関係諸機関とも連携を深めて粘り強く対応する必要がある。

(2) 生徒指導に関しては、生徒が全般的に様々な教育活動を通し、意欲的に学校生活を過ごし、全般的に明るい生徒集団である。挨拶をする生徒も多く、のびのびとしている。年8回の挨拶運動をPTAと協力しながら実践しているが、教職員自らも挨拶をする姿勢が必要である。服装の指導では、スカートの着用などきめ細かく指導していく必要がある。

(3) 学習面に関して、どの学年も落ち着いて学習に取り組んでいる。3年の全国学力調査においては国語と数学は、全て平均を上回った。また、3年の区の学力調査においては国語と英語は、平均を上回った。数学・社会はほぼ平均で理科は平均を下回った。2年の都の学力調査においてもほぼ平均だった。しかし、どの教科も学力の二極化傾向が見られる。

(4) 基本的な生活習慣に関しては都や区の学力向上を図る調査、校内の生徒対象の生徒質問用紙から、規範意識・自尊感情・豊かな体験では、平均を上回っていることが評価できる。

様々な教育活動を通し、生徒の基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、学校行事を通して、今後も生徒の意欲を高めながら、規範意識・自尊感情を育てていきたい

(5) 食育に関して、様々な取り組みを行っている。全体計画も作成しており評価できる。

(6) 学校保健に関しては、今後も家庭と連携してより一層取り組んでもらいたい。

(7) 全体を通して

全般的に生徒は、落ち着いた学校生活を過ごしており、挨拶や食生活、健康状況を見ても比較的良好である。特色ある学校として、生徒が主体となって生徒会活動や学校行事が盛んであるが、心身共に健康な生徒を育てていく意義がある。また、平成25年度は学習指導要領の趣旨の実現に向けて授業時数の確保とともに、生徒会行事や学校行事をはじめ道徳や総合的な学習の時間の見直し、工夫・改善を図り、さらに具体的に進めていくことが課題である。

各調査結果から、全体としては生徒の基本的な生活習慣や意欲や心がおおむね育っている。しかし、今後は生徒の悩みや特に配慮の必要な生徒に対し、個々の生徒に焦点をあて組織的にきめ細かく個別の指導を充実させ、教育活動を進めることが必要である。特にいじめ問題への対応をはじめ不登校生徒、他人とのコミュニケーションの取れない生徒、学力が遅れている生徒への対応を具体的にどのように取り組んでいくのか、校内体制を組織し関係諸機関と連携を深めていく必要がある。

3 次年度の学校改善へ向けた校長の見解

自己評価及び学校関係者評価を基に結果を踏まえると、平成25年度の教育活動は、概ね良好だったと言える。特に学校の行事については、集団行動や生徒の自主性を伸ばすことができた。特に上級生が下級生に範を示し、より良い校風・伝統を継続させようとの意識は伝統として根付いている。生徒の基本的な生活習慣の育成に当たっては、挨拶運動や食育、体育・保健指導において関連をもって進めることができた。今後は、生徒個々へのきめ細かな対応が課題となっている。授業がわからない生徒、不登校生徒、他人とのコミュニケーションの取れない生徒等、課題を抱えている生徒は多数いる。学校全体での指導と個別指導の両面から課題解決を図っていく。

1 清潔で落ち着いた雰囲気の中で、生徒にけじめのある生活ができるようにする

生徒の心的成長と学校の安定化を促す一貫性のある生活指導の方針と態度で指導にあたる。特に気持ちのよい挨拶や正しい言葉遣いができるよう、全教職員が率先垂範し、言語環境を整える。

2 いじめ問題対策方針や学校いじめ防止基本方針に基づいて、組織的にいじめ問題への早期発見・早期対応を図るとともに、いじめを未然に防止するために、互いに支え合い、いじめが起こりにくい集団づくりにあたる。

いじめ状況聞き取り調査を定期的実施するなど、絶えず状況を把握し、組織で正しい情報の共有化を図り、指導にあたる。授業をはじめ学校行事や部活動など子どもに主体的に活動させ、活躍の場を与え、相互に支え合い高め合う集団を形成する。生徒に所属感をもたせ、自尊感情を高めることで、いじめが起こりにくい土壌をつくる

3 教科の専門性を生かし授業力を高め、生徒に「確かな学力」を着実に育む授業づくりをする

授業改善推進プランに基づき、学校全体として内容、指導方法について共通理解を図り、研究授業を通して教師の授業力を高める。授業で、「学習の見通し」を生徒にしっかり示し、生徒に教えるべきところはしっかり教え、生徒に考えさせるところは主体的に考えさせる。生徒一人一人の学習への取り組みを充実させることで、生徒に分かる授業を行う。そして、年度末に生徒に教科ごとの授業アンケートをとり、分析し指導に生かす。また、家庭学習が習慣付くよう、工夫して指導にあたる。より一層、指導と評価の一体化を図り、評価規準の精度を高め、生徒及び保護者への説明責任を果たす。

4 道徳教育をより一層推進する

自他の生命を尊重する心や規範意識をはぐくむ指導を推進する。道徳教育推進教師が中心となり、人権課題を取り上げながら、全教師が協力して道徳の時間における指導方法を工夫し計画的に実施する。道徳授業地区公開講座を活用して、家庭や地域と意見交換することで、相互の思いや願いを理解

し合い開かれた道徳教育・心の教育を推進する

- 5 教育予算を効果的に計画し、適切に執行する
特色ある教育活動の予算を有効に使い、多様な体験学習や地域の教育力を活用を図る
- 6 学習環境の整備と美化に努め、安全・安心な環境にする
学校用務の実務担当者と全教職員との連絡調整を円滑にして、特に教室をはじめ廊下・階段の清掃や掲示物についても学校施設・設備の日常的な点検と補修、整備に意を注ぎ、良好な状態にする。
- 7 安全教育をより一層推進する
「不審者対応の手引き」および「地震対策の手引き」を活用し、分担を明確にし校内体制を構築する。総合的な学習の時間に避難拠点運営連絡会の協力を得ながら、生徒自身に関わりをもち、防災意識や防災行動について気付き、災害に備える意識を高める。また、生徒、保護者、地域に学校の対応について周知徹底を図り、保護者には引き渡し方法や緊急一斉メール等の連絡訓練を通して保護者との連携を一層図る。
- 8 教育相談を充実させるとともに、特別支援教育への対応を図る
日頃から担任を中心として生徒・保護者から安心して相談できる関係を築き、相談には組織的に丁寧かつ迅速に対応する。登校支援シート等を活用し、記録を細かく取るとともに、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援委員会を定期的に関き、正確に情報の共有化を図る。組織的に対応しながら関係諸機関と連携を図る
- 9 教職員個々が専門性を生かして経営の参画にあたり、当事者意識をもち自覚して職務を遂行し、迅速に対応する。仕事を通して人間関係をつくり組織の活性化を図り、チームを大切に学校運営を推進する。「3つのワーク」を大事にしながら推進する。特に、役割を明確にし、OJTを効果的に実践し、若手の育成を図る。
 - ① ネットワーク（報告・連絡・相談・確認をしながら、情報を共有化する。）
 - ② チームワーク（何事も助け合い、協力する。）
 - ③ フットワーク（即時、適切な対応をする。）
- 10 実践志向の積極的な学校文化をつくり、教育課題に対応する
学校評価と関連させて、保護者や生徒による教育活動に関するアンケートと各教科の授業アンケートを分析し、結果と改善を示すことで、保護者・地域への説明責任を果たす。学校をより良くしていこうという前向きな姿勢で、アイデアが生み出される雰囲気を作る
- 11 9年間を見通した教育を推進するために、小中学校の連携・協力を図った学校づくりにあたる
学校公開日や保護者会、学校行事等に保護者、関係小保護者及び地域に呼びかけ、小学校の児童や保護者をより多く参加できるよう工夫し、本校の良さをわかりやすく示し、学校と家庭、学校と地域との信頼関係を積極的に深める。